

2014年3月24日
第20号

自然と文化だより

発行:NPOシニア自然大学校
自然と文化科

*****目次*****

- P1 代表コメント
新体制に向けて
P2 専任幹事のコーナー 写真コーナー
P3 今号の TOPICS
冬芽観察
P4 仲間たちの近況報告 (1)
1班 関西地図の会を御存知?
2班 スイッチ・オン
P5 仲間たちの近況報告 (2)
3班 私の旅行記
4班 死神
P6 リレー随筆
サマーショートステイ
P6 俳句・川柳・絵画サロン
2014冬俳句
P7 私の玉手箱
野生のラン科植物・あれこれ
P8 自由題2編
・草抜き考(2) ・春の宵ばなし

◇自然と文化だより

20号に投稿頂いた皆様、有難うございました。春の日差しがとても長く感じられるようになりました。発行日の辺りには桜前線、関西に間もなく到達となりましょくか。東日本大震災の被災地にも3回目の春の訪れが巡ります。がんばろう! 日本復興にむけて。

N.Take



～新体制に向けて～

代表 肥塚 眞

本年度、自然と文化科が発足して10年目を迎えました。この間、関係者各位のご協力や諸先輩・現役の皆様の知恵と工夫と努力などの積み重ねで順調に発展して参りました。お陰様で、現在調査研究部の中でも、最大科員数となって、非常に幅広く活動を実施しており、名実ともに最右翼の存在になっております。この節目にあたり、これまでを振り返り将来を展望するとともに、各種記録を整理して保存するために10周年記念誌を発行し、まもなくお手許にお届けいたします。

さて、4月から新年度が始まり、次の10年がスタートいたしますので、それに向けての体制、運営方法などをご案内いたします。まず、「来る者は拒まず、去る者は追わず」の基本方針のため入科・退科ともあり、来年度は科員数が、若干ながら増加し総勢100人前後になると予想されます。喜ばしい限りではありますが、従来と同様な活動を継続するためには、現状を見直す必要があります。班体制をこれまでの4班から6班へ変更し、各委員会がそれぞれの活動の運営方法を工夫して、多くの科員の皆さんに楽しんでいただけるよう努力して参ります。

特に、フィールド活動については、班別行動、グループ別行動、コース別行動(同一場所での時間差スタート・起点と終点双方からのスタート・難度別コース、同一活動を2日間に分けて実施等々)などを試行して参ります。

次に、シニア自然大学校は平成27年度に認定NPO法人への移行を目指しており、公益的な取組(特に、社会貢献活動)の拡大が重要になっております。傘下にある当科も、各種イベントへの積極的な参加や活動領域の開拓・拡大などを推進しなければなりません。

更に、急なイベントへの対応を準備しておく必要があります。人員、材料、ノウハウなどの確保が重要です。

更に、調査・研究活動を充実させることが課題です。ややもすると「遊ぶ」・「学ぶ」に片寄りがちになりますが、当科は飽くまでも調査研究部に所属しており「調査する」、「研究する」ことを強化していきたいと考えております。

全科員が知恵を出し合い、創意工夫して、常に進化する、明るい希望の持てる科を目指そうではありませんか。全ての活動が「参加して楽しく、心が通い合う」ように、ご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

自然と文化科10周年に思う

総務専任幹事 西村彦二

総務専任幹事としての3年目の任期も残りわずかになったところでタイミングよく本紙への寄稿要請がありました。

一昨年に本科の10周年記念誌編集委員会が設置され、総務が事務局を担当することになりました。設立当初からの科員がまだ在籍しておられることから、当時の貴重な資料を提供していただきました。今回の記念誌編纂はグッドタイミングだったと思います。15周年まで延ばしていたら、どうなっていたことでしょう。ご提供いただいた資料から色々の事実を知ることができました。

例えば、平成16年に科員19名でスタートした時には、4名の方に賛助会員になってもらったり、環境科などの協力により外部の資金援助を受けるなどして本科の運営資金を賄っていたこと。また、当時は今のような企画や観察といった委員会はなく、代表、幹事2名、会計と各班の代表（班長とは別で“企画委員”と呼ばれていた）ですべてのことを決定・実施し、その後、科員数が増加すると幹事を増員して役割分担していたこと。現在のような委員会の体制が整ったのは平成19年のことで、当時は「総務」ではなく「親睦・科内行事担当」、また「広報」は「写真・IT・HP担当」と呼ばれており、現在の名称になったのは平成21年からです。思うに総務が担っているのは、今も「親睦・科内行事担当」ですが、科員数が増え、科の運営組織が大きくなるに従って、その内容は多種多様になっています。今年、一番大変だったのは公開講演会などの会場の確保と予算執行の管理でした。これらについては、科員の皆さんに色々ご不便や不愉快な思いをお掛けしたことと思います。来期の幹事さんには、もっとスムーズ・スマートにやっていただけるよう3年間の経験をマニュアルにして引き継ぎたいと思っています。

今年の総務は、役職の違いはありますが、昨年に引き続き、私と畑さん、それに会計の下浦さんにも加わってもらい運営してきました。色々ありましたが楽しくやれたのではないかと思います。また、班長・副班長さんにも公開講演会の準備や懇親会の運営などで協力していただきました。この場を借りてお礼申し上げます。



上の写真はいずれも星田さんの黒澤峠のカタクリ及び乗鞍のミズバショウ(2012年5月撮影)です。

冬芽観察

1 班 高原 富佐子

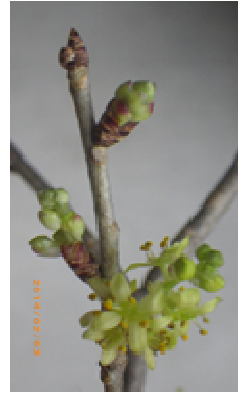
ヒツジの顔やウサギの顔、子どもが笑ったり眠っていたり、それぞれ表情豊かに写っている楽しい冬芽たちに初めて出会ったのは 20 数年前、子ども向け科学絵本「ふゆめがっしょうだん」でした。それ以来、こんな楽しい冬芽にぜひとも会ってみたいと長年思っていました。

実物に出会ったのは一昨年の武田尾での冬芽観察会でした。たまたま写真記録担当で、これまた、たまたまオニグルミの冬芽が、アップで鮮明に写せたのです。それはまさにヒツジの顔でした。



顔の部分は葉痕であり、目や鼻に見えるのは維管束痕であるということも、その時初めて知りました。オニグルミの場合、2つの目と鼻の3か所に維管束痕があるのです。冬芽は枝先に大きな頂芽（これは葉脈のはっきりと見える裸芽）があり、ヒツジのおでこにタンコブのように付いているのは側芽です。

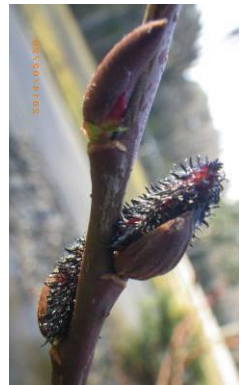
冬芽を観察していて最初に気になるのが「三大美芽」です。どんなに美しいものか見てみたいと思います。ザイフリボクとコクサギは万博公園にあります。ザイフリボクの冬芽は赤くてツヤがあり、芽鱗の縁から白いフワフワの毛がのぞいています。確かに周りの樹々に比べるときれいです。コクサギの冬芽は多数の芽鱗に覆われているが、芽鱗の色が鮮やかな紫で、縁は白くて稲妻模様です。小さい冬芽なので見過ごしてしまいそうですが、ルーペで見ると美しいです。ネジキは里山で見ました。冬芽だけでなく、枝先も赤くてツヤがあるので、里山でもひときわ目立っていました。



コクサギを観察した時、折れていた枝を持ち帰り、コップに差していたところ、数日後に花が咲きました。（左の写真）一つの花に花弁4枚、雄しべ4本の雄花が観察できました。このコクサギは昨夏から継続観察してきましたが、大きな木なのに実が全く付きませんでした。やはり雄木だったのです。

万博の日本庭園で3種類のネコヤナギに出会いました。1つは銀色の毛の花序をつけた河原でよく見かけるネコヤナギ。あとの2つは黒色花序とピンクがかった紅い花序のネコヤナギです。どちらも帽子状の1枚の芽鱗を脱ぎ捨てようとしています。すでに芽鱗が取れてフワフワの毛に包まれた花序を出している芽も多くあります。

右の写真は「クロヤナギ」です。ネコヤナギの変種で雄木だけしかありません。ネコヤナギが枝に短毛が密生するのに対して、クロヤナギは全体に無毛です。花序は真っ黒なので、見かけるとドキッとするほど強烈な印象を受けます。これとは逆に見ると思わず頬が緩んでくるのが「アカメネコヤナギ」です。アカメネコヤナギはネコヤナギとヤマネコヤナギの交配種です。（左の写真）



ネコヤナギは温度差に敏感で、陽の光を受ける南側が急に膨張するため、蕾や花序の先端が北を指す方向指示植物です。（コブシも同様）

冬芽はそれぞれに工夫をこらして寒さを凌ぎ、芽吹き

の春に備えてしっかりと命を育んでいます。様々な冬芽と向き合うたびに、それぞれの寒さや乾燥対策の方法に感動をおぼえますが、冬の樹木を見て、何の木が分かるようになるのはまだまだ先になりそうです。

「関西地図の会」を御存知ですか？

1 班 松堂 忠義

1 月 17 日、広報から「自然と文化だより 20 号」の原稿作成のアナウンスがありました。気のきいた話題もないので、私のもう一つの加入団体である「関西地図の会」を紹介したいと思います。「関西地図の会」は 1994 年に国土地理院近畿地方測量部と一般財団法人日本地図センターの先導で設立された団体です。今年で創立 20 年を迎えます。我々の団体とほぼ同年齢ということになります。現在、中高年を中心に約 150 人が活動しています。1 ヶ月に一度、地形図とコンパスを片手に地理や歴史の専門家が講師となり、各地を訪れ地形や歴史等について学ぶという活動スタイルです。古寺・仏閣を訪れることも多く、そこには貴重な古樹木が多く保存されており、それらを観察するのは私の楽しみの一つです。ここで 20 年間の歩みを紹介いたします。

- (1) 1994 年 1 月 01 日 設立
- (2) 第 1 回活動 1994 年 1 月 13 日
「談山神社から飛鳥の里へ」
- (3) 10 周年記念 2004 年 4 月 06 日
「大和三山で測量の基礎を学ぶ」
- (4) 15 周年記念 2009 年 1 月 15 日
「京都を舞台に山＆街の 2 コース」探索
- (5) 20 周年記念 2014 年 11/08～
11/09 の予定で「世界遺産 高野山」の探索が行われます。

行事は過去 243 回実施され、第 241 回は「黒田勘兵衛の足跡」というテーマで姫路・御着方面へ赴き、第 242 回（2 月）は「熊野古道大阪編」：天王寺～堺で 第 243 回（3 月）は「弥生・古事記の里」：奈良で行われました。当会の活動は体力的難易度に応じて A～D にランク分けされ、それぞれの体力に応じ参加出来るように工夫されています。興味のある方は「関西地図の会」のホームページを検索してみてください。あなたにとって「新しい世界」が開かれるかもしれません。

スイッチ・オン

2 班 長岡 幸子

♪ 岩木のおろしが吹くなら吹けよ
山から山へとわれらは走る
昨日は梵珠嶺 今日また阿闍羅
煙立てつつ おおシーハイル ♪

「シーハイルの歌」を突然思い出し、口ずさんだ。40 余年を経て記憶の回路がつながり、自分でもビックリ仰天。若い頃に熱中したスキーを再開したから、脳が刺激を受けたのだろう。スキーは自転車と同じで、滑り方を体が覚えていると言われるが、全くその通り。むしろ用具の進化で、昔より楽に上手に滑れて、狂喜乱舞だ。志賀高原への誘いに、頭のとっぺんから足の先まで新調し、ドライブ 7 時間で白銀の世界へ。「スキーは楽しいですよ！」は想定通りだったし、筋肉痛のお土産付きも予想通り。最近のスキーヤーは、私を含め、年齢はわからない。ヘルメットをかぶり、ゴーグルをして、カラフルなウェアを着ているので外見若い。が、観察すると、シニア世代の多いこと多いこと。リフト券は 60 歳からシニア割引があるし、圧雪してあるグレンデは、足腰弱者に快適だ。スキーの魅力を平沢文雄さんは次のように語っておられる。

雪山の大自然との一体感

風を切る爽快感

ドキドキ・ハラハラの緊張感

からだに感じるリズム

ルールのない開放感

自分だけの世界にひたれる充足感

斜面の克服感

技術が高まる達成感

スキーは「いきいきと生きる」ために必要な“ところとからだ”を育ててくれます。

寒風に耐えながら、たまたまりフトに乗り合わせた四人の知らない者が、交わした会話は、
「いくつまで滑りたいですか？」
「80 歳までは滑りたいですな。」
「それにしてもシニアばかりですね！」
「時間とお金に余裕あるのがシニアやからな。」
「我々に無いのは、体力ですかね。」 一同爆笑。
こころの若さに・・・スイッチ・オン

私の旅行記

3班 牧野 能子

12月初めにポルトガルに行きました。トルコ乗り継ぎでスペインのサンチャゴ・デ・コンポステーラに入りました。キリストの使徒のひとりヤコブの墓があるといわれ、古くからエルサレム、ローマにつぐ三大聖地のひとつとされる大聖堂があり、大学が多い。巡礼者が歩いた道を行き、歓喜の丘に登りました。道のキラキラ光る砂利が印象的でした。丘の上には巡礼者のレプリカがあり、ヤコブの墓の方向を指差し、歓喜の声を挙げたとされています。

いよいよスペインと別れポルトガルへ、四国と九州の半分の広さで、イベリア半島の南北に細長い国です。ドーロ川に面した第二の首都ポルトヘラスまで3時間です。コルクでカバン、傘、帽子、サイフ等が作られ、ポートワインの発祥地でもあります。ポルトからバスで2時間でコインブラに入ります。ポルトガルのほぼ中央に位置し、モンテゴ川に面し創立当初の首都でした。エリート集団のコインブラ大学の見物には、黒い制服に黒マントの学生がアルバイトで案内をしていました。コインブラから南下してアルコバサでは、ポルトガル最初の王エンリケスが建立したサンタ・マリア修道院があります。オドビスは中世の城塞都市として栄えた、白壁が美しいかわいらしい町。

いよいよ首都リスボンへ。まず、ロカ岬へ行く。大西洋に面したヨーロッパ大陸最西端で、詩人カモンエスの“ここに陸尽き、海始まる”の詩碑で有名。大西洋のなんと穏やかなこと、日本海の冬の海のように荒々しいと想像していたので拍子抜けしました。空は雲ひとつなく、澄みきった青空のなんと美しかったことか。シントラの王宮では内装が豪華で、古いタイルは凸凹があり、大変珍しいものでした。海に面し公園のような広場の先に、航海王エンリケ王子を記念して建てられた海洋発見記念碑が堂々とあります。リスボンは七つの丘の上に建っていると言われ、坂の多い町で、市の中心にロシオ広場があり、ピンオークの街路樹があり、階段の横にエレベーターがあり、狭い小道は曲がりくねり、バス、電車の移動は待つことなく簡単ですが、坂が多くシニアとしては住みたくないと思いました。昔は盛んでしたが、今はファド（民族歌謡）だけが残り、フォークダンスは廃れていったそうです。夜にファドを聴きに行きました。シャンソンに似た哀愁をおびた恋の歌。主に失恋、片思いのように聞こえました。

死神

4班 藤田憲治

死に神の影が纏わり付き始めました。

★平成7年7月7日。超高脂血症で背中に赤ん坊の頭大の瘤が出来て、服も着られず、全身麻酔で摘出術を受ける。インフォームド・コンセントの時ビデオを撮られる。やばい！笑気ガスのマスクを付けるときに、目が醒めない時の覚悟が出来る。8時間の手術後、醒めた。

★平成16年3月母が死去。翌17年1月父が自らの誕生日に逝く。同年12月、自分が出先で脳細菌性髄膜炎で意識を失い、病院へ搬送される。同日、家族・兄妹が呼ばれ「生存率20パーセントの重篤な状態、助かっても半身不随、最悪植物状態」を告知され、延命措置の有無を問われる。極端な免疫力低下でHIV検査の同意を求められる。既存薬が無効なため、新薬の使用の許可も取られる。細菌数6000IU。寛解状態で、1カ月で退院。奇跡的と言われる。

★平成20年、職場で後ろ向きに転倒し、硝子テーブルの角で頭を打ち、大量出血。自ら119番する。微かな意識の中でストレッチャーに乗せられるときに「今度はもう駄目かも」と思って気を失う。約1リットルの出血であつたらしい。8針縫合。鏡で見ると顔が真っ青。警察から（事件性の有無）の確認電話が入る。

★平成23年9月、肝硬変3期のため、2ヶ月入院。腹水・胸水が14リットル溜まる。全身の浮腫。「睾丸」がソフトボール大に腫れ上がり椅子に座れず。丸2日間、小水が一滴も出ずに、腎臓も危機的。腹水が4リットルになった時点で退院。入院時体重は98キロ、退院時は64キロ。腹水というのは比重が大きいものだと感じた。

◎死に神が弱かったのか、自分が強かったのか？「悲観主義は気分のものであり、楽観主義は意思によるものである。」（アラン）

ネガティブよりもポジティブに生きたい。

毎週土曜日3時よりNHK「ぼやき川柳」より。

- ☆ 院長が あかんで言うてる ドイツ語で
- ☆ はいどうぞ 嫁には行かず 孫くれる
- ☆ あなたから もらったものは 名字だけ
- ☆ 同窓会 なかじめで みんな薬飲む
- ☆ ひっそりと 生きるつもりが この美貌
- ☆ 妻だけが 運転できる 火の車

サマーショートステイを受け入れて

3班 樋口 晴子

「モニカさんですか。」「はい、モニカです。」これは8月22日17時30分関西空港ドバイ発の到着口での会話です。ポーランドワルシャワ大学系列の日本語学校生の到着の一コマです。

2週間のサマーショートステイに来た17歳から27歳の女性4人男性1人です。受け入れ先は大阪組3人、京都組3人の家庭でお世話をします。連日猛暑の大阪での1週間の生活のスタートです。北海道より緯度が北のポーランドでは22度位ですが、大阪37度という暑さです。

2人の可愛いお嬢さんを預かることになった我が家は、クーラーの調節と快適に過ごしてもらえるよう出来る限りの「おもてなし」に心配りをしました。基本B&B（ブレイクファーストとベッド）でいいので、朝食に力を入れて会話を楽しみました。

海遊館、スカイビル、大阪城、東大寺、興福寺、日本料理講習会と大阪を満喫し、明日から京都組にバトンタッチする我が家最後の夜、大阪に来た時から「ダイソーとユニクロ」に行きたがっていたので、天満橋のシティーモールに案内し、とても喜んで買い物をして帰宅しました。夕食は、たこ焼きパーティーをして過ごしましたが、ポーランドでは蛸を食べないのか、不思議そうにじーっと見ていたのが印象的でした。

翌日、京都駅までのアクセスを教え、写真を撮ったり、お土産に用意した扇子と一緒に作った「モダマのネックレス」を渡して見送りました。

京都での1週間を終えた5人は、9月3日関西空港23時40分発ドバイ回りでワルシャワに帰国の日、夫婦2人の生活に思いがけない若い新風を運んでくれた2人に会いたくて、夜の電車に揺られて関西空港に向かいました。

思いがけず見送りに来ていたのをビックリする5人と、ささやかなティータイムで名残惜しい時間を過ごした後、通関するのに水を持って入れないため、ゴミ箱の前で飲み干している姿が可笑しく思わずカメラを向けました。

通関の時間が迫り、無事にポーランドに帰国することを願いつつ、笑顔で別れました。

その後の生活をPCのメールでのやり取りは、遠く離れていても近況の解かるツールに感謝する毎日です。

池田炭

又買った本日甘栗2割引き
生ゴミ日カラスと目が合ひ動かれず
またゴルフ妻のほつぺたまた膨れ

山上 恵子

売れ行きが一番にして蓬餅
盲点と知る風船の消えし跡
寒明けの昨日とかはらぬ日でありぬ
花粉症咲きしミモザの黄を厭ふ
節分や小ぶりになりし豆鰯

谷坂 修二

蜃気楼独りで浮かぶ友ヶ島
凜々と氷曝白く起ちにけり
世界中ダイヤモンドか朝霧氷
雪積もる道より望む刃紋峰
登つても登つても白い雪の山
アイゼンのサクサクと利き初登頂

濱田 嵯智子

立春のすぎで紅梅雪つもる
蠟梅の向かうに蒼き天守閣
ルーペ入れおやつも入れて今日も行く
この寒さ感じてサクラ目覚むるや

森 緑

搔き集めお盆の上の雪達磨
錦秋や微笑み返す磨崖仏
もみぢ葉も夕日に映えて阿蘇九重

竹谷 律一

雛壇を巡りて散策土佐街道
高取城石工の匠偲ばるる
苔むした五百羅漢や壺阪寺
二上山国見櫓に対峙して

野生のラン科植物・あれこれ

2班 奎三文作

私の机の上に3冊の本があります。草木に興味を持ち始めたのは今から30数年前のことでした。3冊の本は下記の通りです。

- ・「日本植物圖鑑」昭和30年7月10日 廿三版発行（改訂版）1955年
著者 牧野富太郎 発行所 北隆館 定価 2000円
- ・「原色牧野植物大圖鑑」 昭和60年7月20日 4版発行
著者 牧野富太郎 編集 本田正次 発行所 北隆館 定価 35000円
- ・「原色牧野植物圖鑑」（続編） 昭和58年5月10日 初版発行
著者 牧野富太郎 編集 本田正次 発行所 北隆館 定価 30000円

これらの本が私を更に植物に対して興味づけた本と言っていいでしょう。

クゲヌマラン（礼文島）

日本植物圖鑑には3235図版 原色牧野植物圖鑑に2556図版、続編に1332図版が記載されています。牧野富太郎はこれらの植物を本当に確認し、写生したのでしょうか？



この3冊の本の中にラン科の植物が何種類記載されているかを調べてみると、日本植物圖鑑には82種類、原色牧野植物圖鑑には79種類、続編に35種類で合計196種類の図版が書かれています。

世界ではランの仲間は700属15000種類、日本では75属230種類あると言われています。しかし、日本の野生ラン科の植物の内、牧野植物圖鑑には約半分しか記載されていません。また、ラン科の学名はOrchid（オキッド）でラン科の花をさし、ギリシャ語 opxis からきており、鞆丸を意味します。ラン科の花の魂莖が鞆丸に似ているところから付けられたそうです。新しいラン科の植物は今も続々と発見されたため、牧野富太郎が生存していた当時と異なるのはあたりまえでしょうか。

今年もこれまでに色々なところに自然観察に参りましたが、例年になく野生ランの花を見ることが多かったです。

レブンアツモリソウ（礼文島）

- | | |
|--------------|------------------|
| 1：利尻・礼文島（6月） | レブンアツモリソウ、クゲヌマラン |
| 2：上野森林公園（6月） | カキラン、コバノトンボソウ |
| 3：天生湿原（6月） | サイハイラン、フガクスズムシソウ |
| | ショウキラン |
| 4：志賀高原（7月） | ホソバトンボソウ、ヤマトキシソウ |
| 5：伊吹山（8月） | スズムシソウ |
| 6：山門湿原（8月） | サギソウ、サワラン、ノギラン |
| 7：赤目48滝（9月） | ベニシュスラン |
| 8：六甲（9月） | ミヤマウスラ |



上記（赤字）の11種類のラン科の花を初めて観察しました。これからも、余生の続く限り、牧野富太郎が見たであろう花を探し続けたいと思っています。

フガクスズムシソウ（天生湿原）

サギソウ（山門湿原）

スズムシソウ（伊吹山）



草抜き考(2)

(1)は18号に掲載

大村 沙紀

【オニタビラコ】これほど見た目と実際に差のある草ありません。見るからに根を張って立ち尽くしているようですが、案外基礎部分は弱点です。下葉を束ねてゆっくり引き上げるといとも簡単に全部抜けてくれます。気の毒なほどです。「名にし負はば…」とはならず鬼の割には気の弱いところが見えます。注意してゆっくり引き上げれば茎だけを持って引き上げても根から抜けてしまいます。手のひらを使って広い面積で茎を持つ事が大切です。指先だけでは茎を切ってしまいます。オニタビラコがタンポポと結託して根を生体移植などする計画を練っているとしたらえらいことになりそうです。オニタビラコは名前ほど怖くも強くもない気の弱い鬼です。



【ハルジオン】これはオニタビラコの様にはいきませんが、基本的には矢張り基礎部分が弱点です。なるべく下の方の茎を、両手でクラブを握る要領で持ち上げれば抜けますが、途中で切れる確率も40%以上です。ゆっくり一定の力で引き上げるのが技。ヒメジョオンも同じようです。

【ウツボクサ】これは今年はじめて庭に出現した我家の新種です。或いは気が付いたのが初めてか、茎は切り口が四角で、赤みを帯びて毛はまばらに生えています。花はラッパ状で小さく長さは5mm位、花の直径は2mmくらいしかありません。30個ぐらいを頂上に穂状に付けています。茎が結構硬いので引きちぎれる事はありませんが、分岐が多いので取残しに注意です。

【タンポポ】は地下茎が地中深く伸びており、これをそっくり引き抜くのは結構広く掘り下げないと難しいです。ましてタンポポの根このカフェーを作ろうと思えばしっかり掘り下げることが大事。20cmもある根が抜けた時は、誰かに見せたい気がします。タンポポは見て楽しい花だから抜くのは惜しいのですが、一部を除いて抜いてしまいます。

【ニワゼキショウ】これも花が咲くと可憐で抜くのが惜しい草ですが、強いて言えば抜き易い部類でしょう。花が咲き終わってから、葉をまとめてテコを打ち込めば、案外たやすく降参してくれますが、株がバラけて一部を残してしまう可能性もあります。しっかり根本に道具を打ち込む必要があります。

春の宵ばなし

弥生 3月

2班 星田京子

雛の宵、床の間の雛壇に内裏様3段と高砂の翁、最下段には、かがり手毬とお煎り(*)を盛った菓子器、そして棧俵に入れた土雛。その前で宵節句のご馳走をいただきます。重箱におにぎり、ちらし寿司、巻き寿司、お皿には草餅、芹のお浸し、田螺と分葱のぬた、佃煮、干物、干し蕨と高野の煮物、甘酒(炬燵で作る)等々。食材はみな近くの山や谷川で摘んだり採ったり。隣のおばあちゃんと祖母に連れて行ってもらいました。田螺は早く捕ってきて、網に入れて池に入れ、泥を吐かせて使います。お祖母ちゃん子だった私は祖母から



いろいろな昔話を聞いて育ちました。佐治谷のあほう話、出世魚や鯉(恋)の話、女郎狐の話等々。その中にお雛様は田螺が食べたくて自分の耳と取替えたので耳がないという話です。そういえば3組とも耳がありません。

宵節句とは季節の変わり目、奇数月の重なる日(3月3日、5月5日等)夜の間に

紛れてやってくる魔物や鬼を避けるため、夜を徹して灯りをつけ、寝ずの番をするための宴が始まりと聞いています。宵節句は子供も夜更かしが許される日でした。明けて3日。紐落とし(数え歳5才の祝い)の振り袖を着せてもらい、雛荒らしに出かけます。他所のお家のお雛様を見せていただき、お菓子やおいりを袂にいただいて歩くのです。明くる4日、小さな棧俵に入れた土雛に桃の花とお煎りを乗せて、八東川に流しに行きます。お雛様は私達の災いを一身に引き受けて流れていくのです。

母が逝って2年目の春、今年は母が丹誠込めてかがった手毬とともに125才、104才、97才のお雛様を久し振りに飾ってあげようかと思っています。(※干し飯とあらを煎って水飴でかためたもの、今はポン菓子と霰です。)

自然と文化だより

皆様のご協力により20号が発行出来ました。差替えでご迷惑をお掛けしました事お詫びいたします。次号をお楽しみに！(広報委員会)